

地域サークルとともに

歩んできた

技教研

「ものづくりと技術教育の 研究・交流会」のこれまで

横山悦生

2009年8月に犬山で開催された第42回全国大会は、143名という過去最高の参加者を迎え、技術教育研究会の歴史に新しい頁をつ

け加えることになった。この成功の要因の一つには、以下に紹介する「ものづくりと技術教育の研究・交流会」の取り組みがあった。

この研究会の歴史は5年に過ぎないが、これまでの取り組みをここに紹介しておきたい。

この研究会のはじまりは、三重大学教育学部（当時）の村松浩幸さんと私の連名で呼びかけで、東海地域の技術教育やものづくりにかかわる広範な人々への呼びかけたことによる。その際に作成した「ものづくり・技術教育の研究・交流会（仮称）へのお誘い」というチラシには簡潔にその趣旨が書かれている。

「私たちは幼児から小中高大の学校教育や社会教育も含めた様々な立場でものづくりや技術教育に携わっておられる方々が交流でき、自由に議論したり、教材や実践を紹介できる場を持ちたいと考えています。第1回目の研究・交流会を下記のように開催したいと思いますので、ご興味を持たれた皆様はぜひご参加ください。」

ここに表明されているように、幼児教育における遊びや工作の問題から小・中・高・大学、職業訓練、企業内教育や社会教育の分野までを網羅して、ものづくりや技術教育の問題を議論する場をつくろうとしてきた。第1回目の研究会は2005年2月11日に開催され、その後2、3ヶ月に1回のペースで研究会がもたれてきた。事務局は、私が担当し、村松さんがメーリング・リストの管理を担当してきた。これまでは、主として研究会に参加した人をMLに登録するという方式をとってきたが、村松さんによると登録数は100名を超える数に最近なったようである。2年前から、産業教育史に関する問題を深めて行くために、別の研究会を立ち上げたが、参加者の顔触れはほぼ同じであるので、この産業教育史研究会も含めて、これまでの報告テーマ（報告者名も合わせて）を以下に掲げておく。

第1回 2005年2月11日

横山悦生「スロイド教育の伝統と技術科教育の誕生」

村松浩幸「中学ロボコンで変わっていった先生

方——三重と長野を例に——」

米光富雄「韓国の算数教科書における技術教育的内容について」

第2回 2005年5月14日

佐々木享（この時に報告を予定していた方が出席できなくなったので、臨時で報告を担当された。記録がないのでテーマは現在のところ不明である。）

馬淵浩一「わが国における戦後の理工系博物館の成立過程と技術教育」

第3回 2005年9月17日

三宅章介「企業における人材育成をめぐる諸問題」

久野光弘「愛知県における職業能力開発の現状」

米光富雄「折り紙でつくる立体」

第4回 2005年11月12日

三上敦史「近代日本の鉄道教習所」

西尾円「みのかも文化の森と総合学習——博物館と学校との連携のひとつとして」

第5回 2006年2月18日

伊藤幸子「職人による地域での学習活動事例の検証」

米光富雄「ベアリングの技術史」

第6回 2006年4月15日

天野博之「近代の産業とくらしの発見館」

石田正治「三東南信 産業遺産」

第7回 2006年7月1日

田村豊「スウェーデンと日本におけるものづくりの相違点について」

清原みさ子「幼稚園の手技と小学校低学年の手工科の歴史」

第8回 2006年12月9日

尾上卓生「砂鉄からたたら製鉄の話」

岡田亜弥「グローバル化とインドにおける技能開発——自動車産業の事例から」

第9回 2007年2月17日

長谷川紀子「アイスランドにおけるイノベーション教育について」

三宅章介「わが国企業の人材育成の史的展開」

第10回 2007年7月14日

猿田正機「トヨタウェイと人事管理・労使関係

—トヨタにみる「モノづくり」と「人づくり」—

芝山球範「企業における人材育成の問題」

第11回 2007年12月8日

猿田正機「福祉社会と企業社会——スウェーデンと日本を事例として」

馬淵浩一「電力博物館の成立過程とミッションの変化」

第12回 2008年3月8日

井村保生「福祉とものづくり」

前島和雄「公共職業訓練における機械製図の訓練指導について」

第1回 産業教育史研究会 2008年6月14日

三宅章介「学校と公共職業安定所の職業指導の連携についての考察」

馬淵浩一「近代土木技術習得の諸相」

第13回 2008年6月21日

十名直喜「伝統と創造のダイナミズム——型の技術文化と現代産業——」

ビヨーン・オークレ「Technology and Design Education from play to profession」

第2回 産業教育史研究会 2008年9月13日

三上敦史「通信講習所・通信官吏練習所に関する歴史的研究——文部省所管学校との関係に注目して——」

三宅章介「救世軍の無料職業紹介の歴史」

第14回 2008年12月13日

岡田亜矢「途上国における産業スキルディベロプメント——インドの事例を中心に」

松田一明・宮武昭夫「港湾作業における技能教育」

第3回 産業教育史研究会 2009年2月14日

野村浩志「企業における技術教育に関する検討——通信技術の発達の観点から——」

佐々木享「日本における学校が行う職業紹介の歴史に関する断章」

第15回 2009年4月25日

松本達郎「技術教育としての小学校工作教育の内容について」

久野光弘「愛知県の認定職業訓練」

加藤款哉「国の公共職業訓練の現況、岐阜県の

公共職業訓練の現況」

第4回 産業教育史研究会 2009年6月20日

伊藤一雄「大学での就職支援の諸課題——進路保障の視点から——」

久野光弘「愛知県の認定職業訓練について」
(続編)

第16回 2009年8月3日

田中萬年「公共職業訓練の現代的課題」

第17回 2009年10月31日

松本達郎「ナイフを通してみたノルウェーの教育」

野村浩志「技術教育が存在する領域に関する一考察——技術が生み出す財の分類の観点から——」

第18回 2009年12月26日

ジャルガル「内モンゴルにおけるものづくり教育」

児島高德「工業高校での教材から展開する授業づくり」

坂本学之「学校と企業との関係に関する歴史的研究」

第19回 2010年2月20日

野村浩志「技術を把握する視点に関する一考察」

加藤敬之「日本の小学校における工作教育の衰退についての一考察」

以上にこれまでの報告者とテーマを掲げた。その内容は多岐にわたっている。この2年間に開催された研究会でなされた議論については、名古屋大学の大学院生の協力をえてその記録を作成してきた。この記録については、私の研究室のホームページに (<http://gijyutukyoiukugaku.blogspot.com/>) 掲載することを考えている。

20回目を迎える今回は2010年4月24日に名古屋大学教育学部で開催される予定で、堀建治さんが「戦後における保育士養成について」、世良清さんが「ものづくりと知財教育」について報告することになっている。誰にも開かれた研究会であるので、興味ある方は私のアドレス (n47131a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp) にまで連絡をくだされば案内を送付します。

(名古屋大学)